

京都陶磁器釉薬セミナーの紹介

平成24年度の京都陶磁器釉薬セミナーは、当センターと京都陶磁器協同組合連合会が共催し、事務局は技術センターの基盤技術課(材料・機能評価)が担当しております。当陶磁器釉薬セミナーは、前身の研究会を含めると平成9年に開始し、今年で16年目に入ります。開催回数延べ93回、参加者数は通算約2000名以上となり、この間使用した資料等は約1000点に及びます。

当釉薬セミナーは基本的には、前身の釉薬研究会と同様に会員相互の勉強会的色彩を持ち、メインテーマは、「陶磁器における釉薬理論と実際」という内容であります。平成24年度は、技術センターの5階研修室において、下記予定に掲載してある課題(サブテーマ)を順次実施していく予定にしております。参加をご希望の方は、電話、FAX、e-mail等で基盤技術課(材料・機能評価担当 矢野)までご連絡下さい。

平成24年度の京都陶磁器釉薬セミナーの概要

開催日時	課題・講師	副題および講義概要
(第1回) 平成24年 6月27日(水) 15:00 ~ 16:30	耐熱陶器の素地と釉薬 伊藤 隆 先生 三重県工業研究所 窯業研究室長	「ペタライト質耐熱陶器の素地と釉薬について」 リチウム鉱物であるペタライトを用いた耐熱陶器は、非常に低熱膨張性で耐熱衝撃性に優れていることから、土鍋、陶板などとして広く利用されています。ペタライトは特定の温度範囲で焼成すると低熱膨張性のβ-スボジウム固溶体などの結晶を生成することが知られており耐熱陶器の素地や釉薬の原料として重要な要素になっています。ペタライトの組成、性状、ペタライト質耐熱陶器素地、釉薬の組成、焼成性状、課題と展望などについて解説します。 *講師は昨年NHKBSTV[アイシュタインの眼]に技術解説者として出演。
(第2回) 7月25日(水) 15:00 ~ 16:30	陶磁器(釉薬)と知的財産 伊藤 廣 先生 (元)社団法人発明協会京都支部 (現京都発明協会)出願アドバイザー	「陶磁器の形、文様、上絵付けの柄、彩色等をどう守るか」 約8000年前に誕生した陶磁器は、食器を始め現在も私たちの生活用具として広く使われています。現在の陶磁器は、工業的製品と陶芸家が創る芸術品としての一品物があります。量産品の器の場合、その形、文様、柄およびブランド等は、知的財産権のうち意匠権、商標権で保護され模倣品から守られます。しかし壺、瓶、大型花器等の一品物は意匠・商標権では保護されなく、著作権で守ることになります。今回は、陶磁器の形、上絵付けの柄、彩色等と知的財産権との関係をお話させていただきます。
(第3回) 9月12日(水) 15:00 ~ 16:30	日本の磁器素地について 今井 寛治 先生 (元)京都市産業技術 研究所研究部長	「日本の磁器と京焼磁器の特徴」 日本の陶磁器産業は、世界的に見て非常に優れた可塑性粘土(蛙目粘土、木節粘土)と優れた磁器原料である陶石を利用することにより発展してきました。講演の最初に欧州のカオリン質磁器と我国固有の陶石立磁器素地の組成比較と陶産地毎の異なる原料を活用した磁器の違いを確認した上で、京焼磁器の原料、素地の特徴と焼成時の変化、透明釉(石灰釉)との関係などについて解説します。
(第4回) 11月21日(水) 15:00 ~ 16:30	多成分系ガラスと釉薬 大田 陸夫 先生 京都府中小企業特別技術指導員 京都工芸繊維大学名誉教	「多成分系ガラス・釉薬の構造と物理化学的性質」 釉薬はガラスの一種である。本講では以下の項目について講義します。 ①液体構造、②粘度測定、③組成と粘度、④液体からガラスへ(ガラス転移)、⑤ガラスの弾性率、強度 ⑥ガラスの耐熱性、熱膨張、⑦ガラスの結晶化、⑧組成からの性質予測。
(第5回) 平成25年 2月13日(水) 15:00 ~ 16:30	陶磁器釉の色調と焼成雰囲気 竹内 信行 先生 京都府中小企業特別技術指導員 京都工芸繊維大学大学院准教授	「ケイ酸鉄を添加した鉄釉の色調に及ぼす焼成雰囲気の影響」 陶磁器釉に含まれる鉄の化学状態は焼成雰囲気によって大きく変化し、それに伴って鉄釉の色調も様々に変化する。今回は、着色剤としてケイ酸鉄を添加して、雰囲気を変化させて焼成した鉄釉の色調と釉中の鉄の化学状態変化の関係を種々の測定データから明らかにし、ケイ酸鉄の添加量と焼成雰囲気が鉄釉の色調に与える影響を解説する。

(注)セミナーの進行状況によっては講義内容等を変更する場合があります。

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
基盤技術課 材料・機能評価担当

TEL:075-315-8633 FAX:075-315-9497
E-mail:kiban@mtc.pref.kyoto.lg.jp